



環境保全米通信



環境保全米と有機栽培



【もくじ】

1. 環境保全米と有機栽培
2. 栄養教諭と大学生の環境保全米田植え体験！
3. みやぎの食と農業 俺たちが魅せます！
JA青年部がYouTubeで楽しく情報発信

5月下旬も田植えに精を出す有機栽培農家・大久保芳彦さん夫婦（登米市南方町）

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



『みやぎの環境保全米』は、SDGs の取り組みです。

環境保全米県民会議が取り組む、『みやぎの環境保全米』は国連の SDGs (持続可能な開発目標) の実践そのものです。

「環境保全米」の取り組みは 1992 年のリオデジャネイロの地球サミットをきっかけに始まっています！

アンケート大募集

環境保全米
QR コード





除草対策が腕の見せどころ！

○田植えゆっくり有機栽培米

環境保全米は、農薬や化学肥料を従来の半分以上に抑えて栽培する取り組みです。県内 JA が取り組む特別栽培米基準に加えて、県内有志の生産者が取り組む「有機栽培米」（有機 JAS 認証）も含まれています。

いわゆる慣行栽培（化学肥料や化学農薬を使用する栽培方法）では、ゴールデンウィークを境に田植えが本格化しますが、有機栽培米の田植えは 5 月中旬頃からはじまります。表紙に登場した有機栽培米農家の大久保芳彦さんは、6 月になろうかという時期でもまだ田植えを続けていました。有機栽培米の田植えが遅くなるのはどうしてでしょうか？

○除草に専念できる環境をつくる

有機栽培米の生産者は、慣行栽培米と並行しながら取り組むことが多いため、どのような順番で作業をすれば一番効率が良いか常に考えています。田植後一週間たつと雑草が顔を出してくるので、除草は待ったなしとなります。慣行栽培米は除草剤を散布すればよいのですが、有機栽培はそれできません。慣行栽培米の田植えの次に有機栽培米の田植えに移れば除草に時間を割けるのです。

○除草方法も年々進化

有機栽培米の除草方法といえば、鉄製の爪や車輪がついた機械を田んぼで走らせる「機械除草」、アイガモを放して雑草を食べてもらう「アイガモ除草」、日差しを遮る紙を敷き田植えする「紙マルチ除草」、が主流です。最近では太陽光があれば餌なしでも働く「合鴨ロボット」が登場するなど、毎年多くの工夫や試行錯誤が重ねられ、新しい技術が誕生しています。除草が上手にできるかどうか、有機栽培米生産者の腕の見せどころとも言えます。

環境保全米 は、
農薬や化学肥料が**半分以上**で栽培されています。

環境保全米タイプ	化学農薬	化学肥料（窒素成分）	対象	図
有機 JAS（A タイプ）	不使用 注1	不使用 注1	生産者個人 生産者グループ	
特別栽培（B タイプ）	5 成分以下 注2	田んぼでは 不使用	生産者個人 生産者グループ	
特別栽培（C タイプ）	8 成分以下 注2	3.5kg/10a 以下	農協組織 団体・企業 など	
特別栽培（D タイプ）	8 成分以下 注2	3.5kg/10a 以下	生産者個人 生産者グループ	
慣行栽培 （宮城県の普通の 栽培方法）	17 成分	7 kg/10a	—	

注1：原則不使用だが、場合によって別表の資材を使用することができる。

注2：農薬成分とは、農薬製剤に含まれる有効成分のこと。

1つの農薬には、色々な効き目がある数種類の成分が含まれている場合があります。

NPO 法人

環境保全米ネットワーク



写真左：機械除草 右：アイガモ除草

ワンポイント

農林水産省がまとめた最新の統計によると、2020 年現在の有機 JAS 認証水稻面積は宮城県で 33,984a で**日本第 1 位**。

国内有機栽培水田の 1 割以上が宮城県にあるという驚きの結果となりました。SDGs が注目されるいま、環境保全米づくりを通じた宮城県の取組みはもっと話題になってもよいと思います。

	宮城県水稻 [] 内は全国順位	全国水稻
2020 年	33,984a [第 1 位]	306,312a
2019 年	32,586a [第 2 位]	302,575a
2018 年	30,343a [第 2 位]	296,296a

出典 国内における有機 JAS ほ場の面積（農林水産省）

2 栄養教諭と大学生の環境保全米田植え体験！

普段給食づくりに携わる栄養教諭や、将来管理栄養士を目指す大学生が、宮城県涌谷町の環境保全米栽培農家・黒澤重雄さんの協力のもと、種まき作業と田植えに初チャレンジしました。皆さんに感想を聞いてみました。



「管理栄養士を目指して勉強している身として、米作りの現場に足を運ぶことによって米作りには多くの人の労力がかかっているということを改めて知りました。また環境保全米について肥料などの細かいところまで気を使っているということを初めて知ることができました。環境保全米について知らない人も多くいると思うので伝えていけたらいいと思いました。」
(女子大学生)

「私は初めて田植えを体験しました。田植え機を見たことがなかったので機械の大きさと植える速さに驚きました。苗や土を運ぶのは筋肉痛になるくらい大変な作業でした。このような大変な作業を毎年行い米作りをしている農家の方々に感謝してお米を食べようと思います。」
(女子大学生)

「4月から栄養教諭として働いていますが、田植えを実際に体験するのは初めてでした。実際体験してみて、どの工程もチームワークがとても大事だと知りました。そして、環境や食べる人にもやさしい米作りは、手間や思いがたくさん込められていることを身に染みて感じました。今回体験して学んだことを、毎日の給食を通して子どもたちに伝えていきたいと思います。」
(栄養教諭)

3 みやぎの食と農業 俺たちが魅せます！



～宮城県のJA青年部がYouTubeで楽しく情報発信～

若手農家の集まりである JA 青年部と農業の魅力を多くの人に知ってもらうため、宮城県農協青年連盟は 2021 年から YouTube チャンネル「一粒入魂^{いちりゅうにゅうこん}」で動画配信をスタートしています。

宮城県の主産品である「お米」を作る様子をメインテーマに、田植え前の土づくりや田んぼの生き物調査、ドローンでの撮影など、なかなか観ることが出来ない貴重な映像も満載です。

その他にも、動画で誕生した子牛が市場で売られるまでを追う成長記録のほか、いちごやキノコ、そら豆など、県内で様々な作物を作る青年部員の農場に突撃する動画も投稿しています。

同連盟委員長の佐々木大さんは「動画を通じ、特に若い人たちに、宮城の食と農業の素晴らしさや楽しさに気づいてもらえるよう頑張りたい。」と意気込んでいます。



YouTube で検索してね！

一粒入魂

検索

環境保全米通信春号アンケートより

①第2回赤とんぼセミナー「なぜ環境保全米を作るのか？」

セミナーに小学生が授業の一環で参加していることが素晴らしいと思いました。環境保全米をつくる取り組みの大切さが小学生に伝わっていることに喜びと、未来への希望を感じました。

また、生き物調査の記事も、環境保全米の優位性が示されていて嬉しく思いました。
(宮城野区・櫻井さん)

②30年前に取り組みが始まったこと。

その頃は手間のかかることは面倒だという意識を持つ人が多かったのだろう。最初に取り組んだ人はとても大変だったと思う。
(泉区・夏谷さん)

③第2回赤とんぼセミナー「なぜ環境保全米を作るのか？」

不穏な社会状況が続く中でもSDGs（持続可能な社会の実現目標）に向けた考え方からも環境保全米が30年経過している事実をもっと未来の子供にこのように広めてほしいから。
(若林区・鈴木さん)

④環境保全米を使った料理教室

調理師科学生と関先生の調理メニューを見ただけで食べたくなりました。ホテルでのメニュー学生の考案をとりあげて「食べる人がどういう顔をして食べるか」思い浮かべてこれからの未来がとても楽しみです。
(加美町・尾形さん)

⑤第2回赤とんぼセミナー「なぜ環境保全米を作るのか？」

「環境保全米は1991年仙台市で農薬散布した時に水道水の汚染事故が起きたのが始まり」という部分が初めて知って驚いたからです。教訓を生かす部分をこえて熱心に取り組まれているところがすばらしいと思いました。

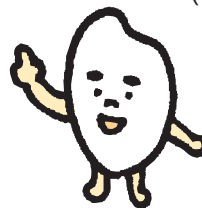
(石巻市・直さん)

⑥「環境保全米」田んぼの生き物調査 速報

慣行栽培に比べて生き物が多いことが明らかになっていて、環境に優しいお米作りがされていることが、目に見えてわかった。生態系を守りながら、私達の環境を守りながら、自分たちの大切なお米を作り、食べていけたら嬉しいなと感じた。
(泉区・菊地さん)

⑦「環境保全米」田んぼの生き物調査 速報

春は田植え前の田園に水をはってそれに月が浮かびカエルの合唱、秋は畦道を通るとイナゴ（バッタギ）がササッザッって逃げる音、今も耳に聞こえるようです。このページを見て一瞬にして若き頃にもどりました。ありがとうございました。
(石巻市・石田さん)



ご感想をお寄せください

アンケートにご協力いただいた方の中から抽選で、環境保全米2キログラムを10名様に

Q1 興味を持った記事は？その理由も。

Q2 環境保全米への疑問や取り上げてほしいテーマ等。

【アンケート記入例】

●応募方法

次の項目をご記入の上、FAX・メール・郵送で応募先までお送りください。
・アンケートの回答 ・お名前 ・年齢 ・ご住所 ・電話 (FAX) 番号
いただいた回答および個人情報は当法人にて厳重に管理しプレゼントの発送、または各種情報の提供、イベントの案内以外の目的では使用いたしません。

●応募締切

郵送の方は **2022年7月31日消印有効**
メール・FAXの方は **2022年7月31日まで**

※抽選結果は発送をもってかえさせていただきます。

●応募先

NPO 法人環境保全米ネットワーク事務局

〒980-0011 宮城県仙台市青葉区上杉 1-16-3 JA ビル別館 5 F

TEL : 022-261-7348 FAX : 022-261-7488

E-mail : okome@epnetwork.org

URL : <http://www.epnetwork.org/>

●アンケートの回答

Q1 _____

Q2 _____

●名前 保全米 太郎

●年齢 40 才

●住所

〒980-0011

宮城県仙台市青葉区

上杉 1-16-3

●電話番号

022-261-7348